



校内音楽祭の意義 ～ 学年団通信や各種研究論文より ～

時が経つのは早いもので、校内音楽祭まであと13日となりました。各学年でリハーサルが行われ始めたり、「きょうだい学級」で演奏を聴き合ったりと、互いに刺激を受けながら、練習が一層熱を帯びてきました。

さて、学年団便り(10月号)には、校内音楽祭(合唱コンクール)の意義に関連して、以下のような記事が掲載されていました。

【1年団通信より(抜粋)】

生活をしていれば何事も得意なことや好きなことがある反面、苦手なことや嫌いなことも必ずあります。そんな中でも苦手な人もいろいろな思いを胸に、折り合いをつけながら、合唱練習に挑んでいることに気付かされました。合唱練習や校内音楽祭本番等で一人でも多くの人が、他の人の気持ちを考えれば、もっとよりよい学級合唱になると信じています。

【2年団通信より(抜粋)】

「人の気持ちを理解する力」「自分の思いを伝える力」「ルールを守る力」「我慢する力」・・・こうした力が最も必要になるのが、校内音楽祭に向けた練習なのです。金賞をとることではなく、この校内音楽祭に向けた取組を通して何を学んだのか、どれだけやりきれたのかということが大切です。もっとできた、と後悔することがあるかもしれませんが、その思いを次につなげられればいいのです。失敗は次の成功のためにあるのだから。

【3年団通信 生徒の決意文の要旨より】

◆うまくいかないことも多いですが、皆で声を掛け合い、励まし合いながら日々練習に取り組んでいます。◆練習時の無駄な時間を減らし、限られた時間を最大限に生かします。◆最後の校内音楽祭なのでみんなで楽しんで、最高の思い出になるように頑張ります。◆伴奏でみんなの歌をリードし、みんなで一つになる雰囲気を作り上げたいと思っています。◆声が小さい、思いが込もっていないなど、一人一人の課題を改善していきます。◆私たちが主役の校内音楽祭。一人一人が自信をもって歌います。◆後悔のない、聴いている人の心を動かす合唱、思いのこもった合唱を目指します。



中学校学習指導要領音楽編では、人と人がどのように感情で伝え合い共有するかを学ぶことを重んじています。また、ある研究者は、「合唱は、目標・目的に向かって、共同・協力する能力や問題を分析し、解決のために努力する能力を高め、演奏会を通して、誇り・自尊心や自信をもつことができる」と述べています。別の研究者は、「合唱による心理的幸福感や健康増進感の向上」を挙げており、これにより「合唱活動において、仲間同士のつながりや支え合いのきっかけとなり社会性を育む効果がある」と述べています。

【3年生リハーサル風景】

このように、子どもたちが校内音楽祭の本番に向けて、自分たちの合唱を創り上げるうえで、合唱をよりよくするために互いに自分の意見を伝えたり相手の意見を聞いたりして、自分にできることを行う一連の活動を通すことで、自己指導能力(どのような行動が適切であるか自分で考えて、決めて、実行する能力)を育むことができると考えます。

教育的意義の極めて高い校内音楽祭。来週から子どもたちのラストスパートが始まります!

各学級の演奏順決定!(10月17日(木))

演奏順	1年	曲名	2年	曲名	3年	曲名
1	1-2	走る川	2-1	わが里程標	3-5	花をさがす少女
2	1-4	野生の馬	2-2	ひとつの朝	3-3	君の隣にいたいから
3	1-3	名づけられた葉	2-3	信じる	3-4	Chessboard
4	1-1	一羽の鳥	2-5	寒馬よ雪原に嘶け	3-6	soon ah will be done
5	1-5	空駆ける天馬	2-4	川	3-1	親しらず子しらず
6					3-2	言葉にすれば